

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 北原 雅樹 横浜市立大学医学部麻酔科学講座 診療教授 ペインクリニック担当

研究要旨

学際的痛みセンターは慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステムとして極めて重要で、臨床・教育・研究・Public Relations (P/R) の4つの重要な機能を持っている。平成29年度/30年度に行った「慢性痛診療における地域連携に関する予備的研究」の結果を受け、今年度から、慢性疼痛診療システムの均てん化および慢性痛診療の内容向上のための、痛みセンター診療データベースの活用の研究を行った。当科には令和元年4月1日～令和2年3月31日の間に、慢性疼痛の新患239人が受診し、それらのデータを収集して研究代表である福島県立医科大学医学部疼痛学講座に送付した。ビックデータの分析の結果、全国的な傾向や地域ごと、施設分類ごとの傾向が見られれば今後の慢性痛診療の方向性について極めて有用なデータが得られることが期待される。

A. 研究目的

学際的痛みセンターは各地域の慢性の痛みの中心となる組織であり、臨床・教育・研究・広報/啓発活動という4つの重要な機能を持っている。特にここ3年間は、厚労省モデル事業に基づく地域との連携の試み（医療者研修会の開催など）を受けて、慢性の痛み医療の地域拠点病院という機能を満たしつつある。

慢性の痛みの患者に対する標準治療モデルを作るためには、診療データベースをビッグデータとして使い、情報を必要な施設と共有することが必要となる。その分析結果に基づいて、治療体系を全国的に均てん化しつつ向上できる可能性がでてくる。

痛みセンターとしての機能を十全に発揮するためには、多職種との顔の見える関係の構築や、患者とのShared Decision Makingの努力が必要である。そのうえで、診療データベースへのデータの蓄積のために、問診票の内容の洗練化、データ収集の効率化、情報の

共有などをどのように行えばよいかを探求することを目的とする。

B. 研究方法

厚労省から出されている23大学痛みセンター共通問診票を各患者に初診、3か月、6か月、9か月、12か月おきに記入してもらい、それぞれのスコアがどう変化するか注目して診療に役立てるとともに、慢性疼痛患者の心理社会的背景に注力し、カンファレンスなどでその情報を共有、また精神科医のアドバイスを受けるなど最大限に活用した。

（倫理面への配慮）

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会の「新・倫理綱領」に準じた活動を行うように最大限の注意を払った。

C. 研究結果

令和元年4月1日～令和2年3月31日の間に、慢性疼痛の新患239人が当科を受診し

た。そのデータをビッグデータの一部として、当該研究の中心である福島県立医科大学医学部疼痛学講座に送付した。現在、総合的な結果を分析中である。

D . 考察

全国の他施設での慢性痛患者に関するデータ収集とその分析結果によって、どのような傾向が見られるのかは極めて興味深い。さらに、全体的な傾向だけでなく、地方ごとの傾向や、各痛みセンターの大まかな種別ごとの分類（治療に参加している医療者の職種や、カンファレンスの回数などによって、A～Eまでに分類されている）毎の傾向なども興味深いと思われる。

特に、今回新たに加わった発達障害系のスクリーニング指標に対し、どの程度の反応が見られるのか、有効性を示すことができるのか、また、スクリーニングで陽性となった患者に対しどのような対応を取ったか/とるべきなのか、についても大きな知見が得られるであろう。

一方、質問票の内容が多岐にわたるにつれ、質問数が増え、患者の負担が増えることは大きな課題である。特に、高齢者は回答に長時間がかかり、厳しいものがある。

E . 結論

厚労省 23 大学共通問診票には患者のかなり多くの個人情報が含まれる。今年からはさらにその上に ASD,ADHD など発達障害の可能性をチェックする質問紙が含まれ、より一層各患者個人の特性が詳細にわかるようになった。その結果患者の特性に合わせたオーダーメイドの治療ができるようになりつつある。

慢性痛の治療は心理社会的な介入が重要であり、その意味ではデータベースの活用が欠かせないが、今年度から使用を始めた問診票

はその意味で大変重要であるといえる。

このデータベースを 23 大学で共有してビッグデータにすることにより、より精度の高い研究ができるようになったといえよう。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G . 研究発表

1.論文発表

1. 北原 雅樹 .慢性痛診療における作業療法の未来 作業療法ジャーナル 54; 154-158: 2020.
2. 北原 雅樹 .オピオイドの過量服用 .臨床精神薬理 22; 277-283: 2019
3. 北原雅樹 .集学的アプローチにおける各職種の役割 in 牛田享宏ほか 慢性疼痛ケースカンファレンス pp. 114-118 , 2020 , Medical View , 東京 .
4. 平林 万紀彦 運動器疼痛から、がん性疼痛まで 難治性疼痛患者の真の回復について考える(総説) Journal of Musculoskeletal Pain Research(2186-2796)11 巻 3 号 Page233-242(2019.09)
5. 平林 万紀彦 急性精神病の最近の状況 急性精神病に対する m-ECT の役割 適応と効能を再考する 第 115 回日本精神神経学会学術総会 2019.6
6. 平林 万紀彦【電気けいれん療法(ECT)の発展:現状と今後の方向性】難治性疼痛に対する電気けいれん療法 身体症状症への効能(解説/特集) 最新精神医学 (1342-4300)24 巻 3 号 Page203-209(2019.05)
7. 平林 万紀彦 森田療法よる回復の歩み 身体症状症の真の回復を考える 痛み診療における森田療法の役割(解説) 日本森田療法学会雑誌(1881-2651)30 巻

2.学会発表

1. 望月 英樹, 林 和子, 北原 雅樹, 中村 健 . 慢性疼痛患者に対して活動量計を用いた評価 . 第 12 回日本運動器疼痛学会 . 東京 . 2019.11.
2. 前島 英恵, 北原 雅樹 . 当科受診を契機にレビー小体型認知症(DLB)と診断された背部痛の一例 . 第 53 回日本ペインクリニック学会 . 熊本 . 2019.7.
3. 北原 雅樹 . 慢性疼痛に対する心理療法は誰が担当するのが望ましいのか?(シンポジウム) 第 53 回日本ペインクリニック学会 . 熊本 . 2019.7.
4. 小島圭子 治療後遺症 乳癌術後の慢性疼痛症候群 知識を共有しケアにつなげる 日本乳癌学会総会 2019.7
5. 加藤 薫(川崎市立井田病院 緩和ケア内科), 久保田 敬乃, 西 智弘, 佐藤 恭子, 石黒 浩史, 小島 圭子, 筒井 祥子, 宮森 正 悪性腫瘍に伴う三叉神経痛に対してメサドンが有効であった 2 症例 第 24 回日本緩和医療学会学術大会 2019.6

H .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし